

令和3年度長崎県剣道連盟秋季居合道段位審査及び講習会

令和3年10月3日(日)諫早市ふれあい広場中央体育館において秋季長崎県居合道段位審査会及び講習会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染防止対策のために春の講習会及び段位審査会、長崎県居合道段別選手権大会が中止となりました。本年4月に開催された段位審査会引き続き、今回、段位審査会を開催することができたことは喜ばしいことでした。今回の審査会は新型コロナウイルス感染対策ガイドラインに沿って実施されました。段位審査会を前に審査員長の剣道範士八段佐藤信秀より審査を受審するにあたっての挨拶がありました。審査員はシールド及びマスク着用、受審査者はマスク着用での審査会となりました。

<昇段審査>

今回の昇段審査は午前10:00より初段から二段まで実施されました。全日本剣道連盟居合解説書に定める審判・審査上の着眼点をもとに厳選な審査が行われました。

審査結果は初段2名、二段2名、合計受審者4名合格4名合格率100%でした。審査会後に実技と学科合格者の発表が行なわれ、講評を審査委員長より、受審者全員に向けてありました。今回の段位審査会は新型コロナ感染対策のため、緊急事態宣言が発令され、道場によっては2ヶ月間稽古が出来ずに段位審査会受審にも大きな影響があり、4名という少ない受審での段位審査会実施となりました。しかし、内容的には審判・審査上の着眼点を十分に満たしている素晴らしい内容でした。各道場で日頃から指導されたことが確実に身につけていることが感じられました。

<居合道講習会>

午後からの講習会は居合道教士七段高木志伸居合道部長より、居合道講話があり、居合道におけるガバナンス・コンプライアンスの取り組みと午前中の段位審査会での留意点や基礎基本を重点に説明、解説があり、その後檀崎友彰居合道範士九段の「つねに居合の本質にそって抜け」と山鳥重吉居合道範士「居合道 昭和の名人」の資料説明がありました。実技講習は段外から六段まで各段に別れ、七段の先生方が指導にあたりました。講習生はそれぞれが目的を持って先生方の指導を受けていました。講習会参加者は段外4名、初段3名、二段0名、三段3名、四段5名、五段9名、六段6名、七段10名、合計40名が参加しました。

1	初段	織田慶次	尚武館(雲仙市)
2	初段	永岡未来	修道塾(西彼杵郡)
3	二段	濱本陽菜	剣倫会(長崎市)
4	二段	澤勢瑞城	遊道会(長崎市)

指定技 【初段～三段】

①前 ②後 ③柄当て④袈裟斬 ⑤諸手突き

「段位審査会及び秋季講習会の様子」



新型コロナウイルス感染対策の審査会



初段審査 5本目、袈裟斬り(八相の構え)



学科試験は30分で回答をする。



二段審査 5本目、袈裟斬り
(お手本のような抜き付け)



最後に演武を披露する受講生



実技指導を熱心に受講する講習生